

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

これから少しずつ サンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修」を読みやすく解説します。私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

典礼憲章

② ～第二バチカン公会議公文書より～

聖なる典礼の本質と教会の生活における典礼の意義より
（【典礼】とは、キリストの祈りに与ることです。）

聖なる【典礼】は、教会の全活動を果すものではありません。私たちが神様を礼拝し祈りに与る前に、まず信仰と回心へ召される必要があります。

教会は、神様をまだ信じていない人には「救いの知らせ」を告げ、イエス様を知って回心するよう勧めます。そして、神様を信じている人には常に信仰と償いを説き、秘跡への準備をさせ「イエス様の教え」を守るよう導きます。

イエス様は使徒たちに使命を委ねられました。

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。

彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいる」（マタイ 28章 19～20節）

教会はこの使命を継続できるように努めます。

そして、私たちキリスト信者は自身が「世の光」であり、神様を賛美していることを人々の前ではっきり示さなければいけません。

（つづく）